

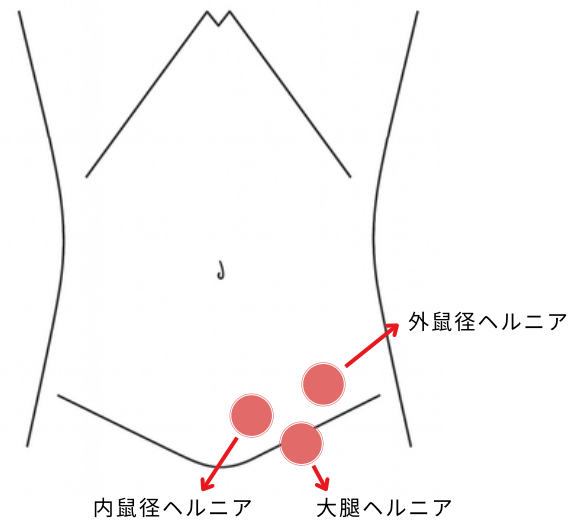
## 鼠径ヘルニアとは

鼠径ヘルニアとは、太ももの付け根（鼠径部）に、腸や脂肪などのお腹の中の組織が飛び出してくる病気です。

昔から「脱腸」とも呼ばれ、決して珍しい病気ではありません。

お腹の壁が弱くなったり、もともとすき間があることで、腹圧（お腹に力がかかること）が上がったときに起こります。

左右両方が脱出してくることもあります。



## 鼠径ヘルニアには種類があります

### 外鼠径ヘルニア

幼児と成人が発症するほとんどのヘルニアが外鼠径ヘルニアです。

鼠径部の外側やや上方から膨らみ始め、これが少しずつ大きくなると最終的には陰嚢まで臓器が脱出してくることになります。

比較的若い患者さんのほとんどはこのタイプです。中高齢者にも多く、一般的な鼠径ヘルニアと言えます。

### 内鼠径ヘルニア

外鼠径ヘルニアの出入り口より内側の鼠径三角という部位の筋膜が弱くなり、臓器が押し出されて飛び出すのが内鼠径ヘルニアです。

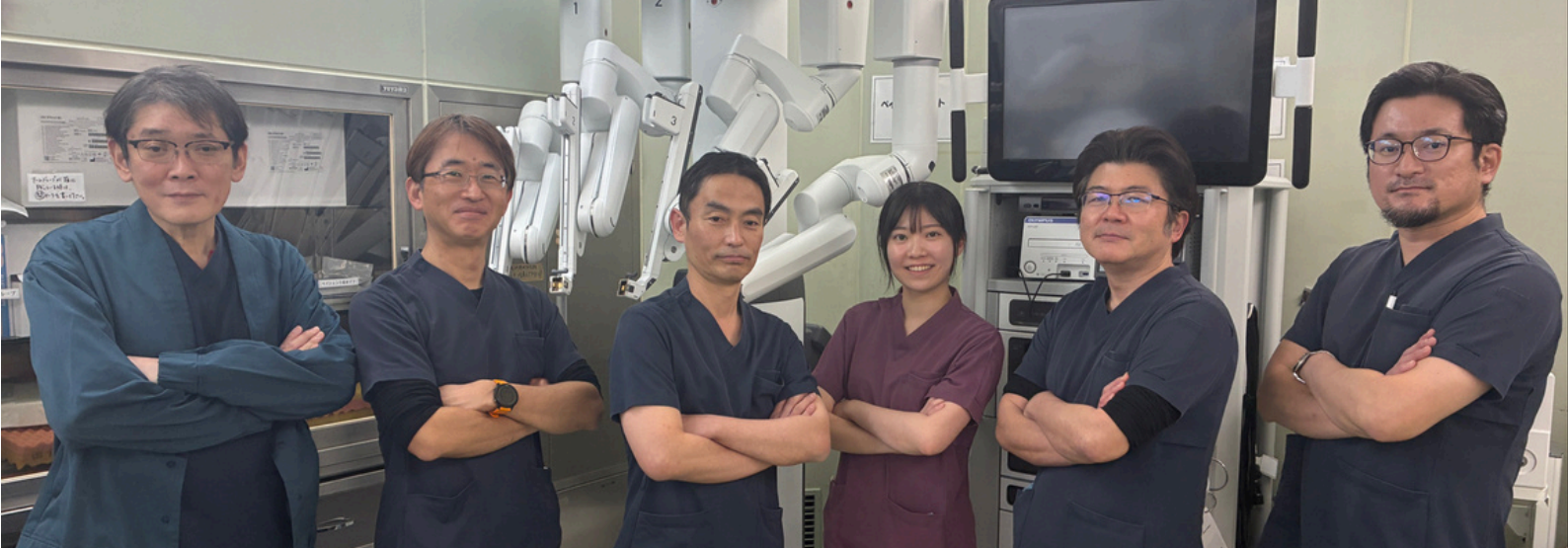
中年以降の男性に多いのが特徴です。

### 大腿ヘルニア

女性に多いヘルニアで、特に高齢の女性に多く発症します。

太ももの付け根の下側が膨らみますが、付け根の上に膨らむこともあります。

嵌頓（かんとん：脱出した臓器が出入り口で締められて戻らなくなる）になる可能性が最も高いヘルニアです。



## 検査

多くの場合、問診 視診・触診 で診断が可能です。

必要に応じて、超音波検査（エコー）やCT検査を行います。



## 治療

手術以外に根本的な治療はありません。

### 直達法によるヘルニア修復術

鼠径部を切開する手術方法です。ヘルニアの膨らんだところを切開し、ヘルニアの穴（ヘルニア門）を見つけて、補強する手術です。

皮膚切開は、4-6cm程度ですが、ヘルニアの大きさや、患者さんの体型によって、切開部位や切開の長さが異なります。

ヘルニア門の補強は、組織縫合法かメッシュという手術材料による補強にて行います。

### 腹腔鏡下ヘルニア修復術

腹腔鏡という細いカメラを使用して手術を行う方法です。

従来から行われている直達法とは異なり、まずお腹に小さな穴を3カ所程度あけます。その穴から腹腔鏡を入れてお腹の中を観察し、別の穴から入れた手術器具を操作して、ヘルニア門をメッシュで補強します。

